

COVID-19で求められる国立医療の検証 -医師・管理者・行政-

座長 大平 徹郎[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日 於 WEB開催)

IRYO Vol.75 No. 6 (512-513) 2021

要旨

シンポジウム1では、COVID-19で求められる国立医療を検証する目的で、5名の演者にご発表いただいた。本シンポジウムを通して、ナショナルセンターの感染症専門医や国立病院機構NHOがこれまで果たした役割、院内クラスターを克服した処方箋、臨床現場からは垣間見ることのできない地域保健所の活動が明らかになった。

キーワード COVID-19, ナショナルセンター, 国立病院機構, 院内クラスター, 保健所

2020年1月のCOVID-19国内第1例確認、2月のクルーズ船集団感染以降、医療現場はいうまでもなく、国民生活の隅々までが激動の波にのみ込まれた。同年10月16日、17日に新潟市・朱鷺メッセで開催されるはずであった第74回国立病院総合医学会も例外ではない。

実開催からオンライン方式への完全移行を余儀なくされた時、残り期間は半年を切っていた。学会史上初のタスクに挑む中、中島孝会長を中心に下村登規夫、新木一弘、大平徹郎の3副会長が新たな意気込みで準備に着手したのが、緊急企画「COVID-19を越えその後（さき）へ」である。「越」「後」の2文字には、新潟開催を果たせなかった主催者サイドの思いを込めた。

2つの特別講演、3つのシンポジウムから構成されたこの緊急企画は、オンライン学会当日、開会式、オープニングリマークスに続いてライブ配信された。企画の主眼は、新型コロナウイルス・パンデミックの渦中にある国立医療を検証し、到達すべきゴール

を見いだすことである。視聴者が知りたいことは何かに的を絞り、国立医療に携わる人々の高い使命感に答えることを最優先した。

筆者が座長を務めたシンポジウム1「COVID-19で求められる国立医療の検証 -医師・管理者・行政の立場から-」では、5名の方々にご発表いただいている。

シンポジウム1

「COVID-19で求められる国立医療の検証」 -医師・管理者・行政の立場から-

座長 NHO西新潟中央病院長 大平徹郎

- 1) 感染症専門医・ナショナルセンターの立場から
国立国際医療研究センター病院国際感染症センター 国際感染症対策室医長/国際診療部副部長
(兼任) 忽那賢志
- 2) クルーズ船対応等NHOの立場から

国立病院機構西新潟中央病院 [†]医師

著者連絡先：大平徹郎 国立病院機構西新潟中央病院 院長 〒950-2085 新潟県新潟市西区真砂1-14-1

e-mail: ohdaira.tetsuro.nf@mail.hosp.go.jp

(2021年3月19日受付, 2021年8月6日受理)

Verification of National Medical Service Required for COVID-19 from the Perspectives of Doctor, Director, Public Health Center

Ohdaira Tetsuro, NHO Nishinigata Chuo Hospital

(Received Mar. 19, 2021, Accepted Aug. 6, 2021)

Key Words : COVID-19, national center, national hospital organization, in-hospital cluster, public health center